

もちい～とねばらいや！山間地農業！！

～山間地の条件を活かした「おいしい もち米&もち」増産プラン～

倉吉市関金町
認定農業者 天野 勝美

1 はじめに

私は、標高550m山間地域での水稻（もち）320a、水稻（うるち）20a、しいたけ（有効5,000本）、野菜（白菜、キャベツ、ピーマンほか9品目）130aの複合経営を父、母と3人で経営を行っている。

山間地域であるため、法面が大きく除草作業に時間がかかる、圃場間の移動距離が遠い、日照時間が少ない、12月から3月までは積雪のため農産物の作付けが困難など平坦部と比べると不利な面が多い。しかし、そのような条件のなかで農業を行っていくには、さまざまな工夫による付加価値の高い農産物の生産が不可欠と考えている。

そこで、高付加価値化が期待できる農産物としてもち米に着目、山間地で栽培でき、味に自信のもてる品種を独自に導入。当初160aだった自作地を少しずつ増やし、現在320aで栽培している。収穫したもち米はなるべく高単価で販売できるよう「もち」に加工して直売所やスーパー等で販売しているのだが、これが大変好評を得ており、大口での注文や契約販売の申し出も相次いで頂いている主力出荷物の一つとなっている。

しかし、現在の作付面積では入ってくる大口注文や契約販売に十分に応じることのできる生産量が確保できず、将来的には通年の販売を目指しているが、冬季4か月半でもち米が尽きるのが現状である。生産量を増やすには作付面積の拡大が必要不可欠である。

また、山間地域では水田農業の担い手の高齢化が進み、稲作がしたくてもできず荒地となっていく農地も増えている。このままでは地域の水田農業は廃れていくばかりである。

そこで私はこの消費者ニーズの高い「もち米」および「もち」を活用し、他の山間地域の栽培賛同農家も巻き込んでさらなる所得の向上を図る仕組みを構築し、作地面積の拡大、生産量の増加を図るとともに作付けできなくなったかたの農地を引き受け、これ以上の荒地化を食い止めたいと考えている。それが個人所得の向上を図るとともに、認定農業者として地域農業を支えるための一端を担うことになると考えている。

しかし、現状ではそれに二の足を踏んでいる状態となっている。

現在、刈取は他者に依頼して行っているのだが、もち米のため他の米と混じってはならず、順番が後回しになる関係上、適期に刈取ができないのである。また、現在、他産業に就職している息子が後継者として帰ってくる予定で、少し標高の低い地域での水稻（コシヒカリ）栽培面積の拡大も計画しており、適期収穫を行うためには、コンバインの導入が必要と考えている。

しかし、農業機械の購入は経営にとっては大きな負荷となる。経営を圧迫せず目標実現のために取り組むことができるがんばる農家プラン事業は大きな助けである。この事業を活用させていただき、地域農業の活性化に尽力していきたい。



《もち》



《冬の野添》

2 現状と課題

(1) 現状

- ①生産者 天野 勝美
- ②栽培面積 320a (もち米)、20a (うるち米)
- ③平均単収 390kg/10a

④水稲栽培に係る主な機械装備

機械等名称	能力	台数	備考
トラクター	23PS	1台	H22 中古で導入
田植機	4条	1台	H24年新規導入予定
軽トラック	—	3台	—

(2) 課題

- ・もち米、もちが好評で販売先から出荷量を増やしてほしいとの要望があるが応じられていない。
- ・コンバインを所有していないため、収穫作業を委託しているが、山間地で収穫時期の天候が安定しない上、うるち米との混入を避けるため順番が後回しにされ適期収穫ができていない。
- ・このもち米およびもちの最大の売りは「おいしさ」であり、適期収穫を行える体制を整える必要がある。

【直売所、バイヤーの声】

- ・年間をとおして売れているので、年間出荷してほしい。(直売所)
- ・年末のもち米をもっと増やしてほしい。(バイヤー の声)

【もち米栽培賛同農家等の声】

- ・コシヒカリを作っているが、値段が安い。もっと高く売りたい。

3 目標

- ・もち米・もちで販売額 1, 100万円以上

4 改善策および効果

(1) 栽培面積の拡大

[改善策]

- ・販売先の要望に応えるために、栽培面積の拡大を図る。
- ・ただし、「おいしさ」を維持するためには、山間地での栽培が条件。
- ・そこで、同じ山間地にほ場を有し、もち米栽培に賛同して「おいしさ」を維持するための栽培方法を実施してくれる農家を巻き込む。

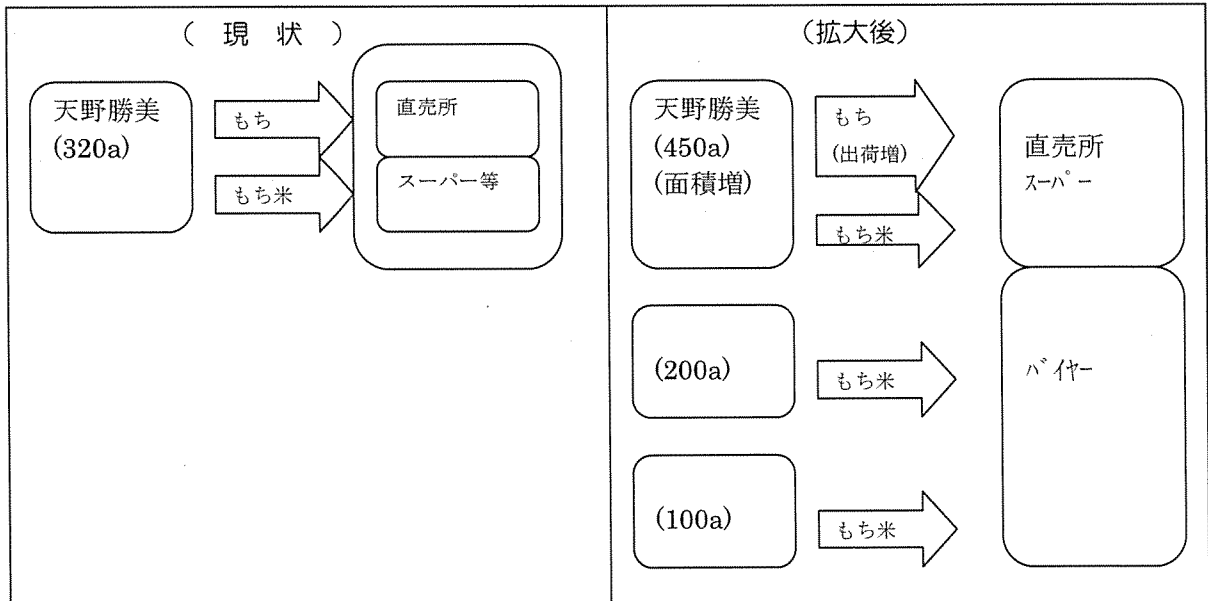
[効果]

- ・「おいしさ」を守りながら販売先からの出荷量増の要望に応えることができる。
- ・協力農家も付加価値の高いもち米を栽培することで販売額を増やすことができる。

【拡大ほ場の概要】

協力農家	ほ場場所	面積 (現状 H23)	面積 (拡大後 H26)	収穫予定時期
本人	倉吉市関金町	320a	450a	9月末
	倉吉市関金町	—	200a	9月末
	倉吉市関金町	—	100a	10月初旬
合計		320a	750a	

【出荷の方法】



(2) 適期収穫実施体制の整備

[改善策]

・コンバイン（3条刈）の導入

[効果]

・適期に収穫を行うことができ、「おいしい」もち米の栽培拡大が可能となる。

・栽培面積拡大予定のコシヒカリについても適期に収穫が可能となる。

・また、適期収穫を希望する農家が多く収穫作業委託の要望があることから、収穫作業の受託を計画しており、収入を増やすことができる。

※ コンバインの運搬は4 t ユニック

【コンバイン作業計画】(H26)

委託希望農家	ほ場所在地	面積	栽培品種	収穫予定時期	備考	移動時間 (自宅から)
天野勝美	倉吉市関金町	450a	独自品種	9月末	本人	10分
天野勝美	倉吉市関金町	70a	コシヒカリ	9月中下旬	本人	10~20分
		100a	独自品種	10月初旬	受託	10分
A	倉吉市関金町	60a	コシヒカリ	9月下旬	受託	10分
B	倉吉市関金町	60a	コシヒカリ	9月中旬	受託	15分
C	倉吉市	55a	コシヒカリ	9月中旬	受託	30分
D	倉吉市	50a	ハクトモチ	10月中旬	受託	35分
E	倉吉市駄経寺町	37a	ハクトモチ	10月中旬	受託	40分
F	倉吉市	80a	ハクトモチ	10月中旬	受託	45分
G	琴浦町	50a	ハクトモチ	10月中旬	受託	40分
H	琴浦町	40a	ハクトモチ	10月中旬	受託	25分
I	琴浦町	60a	ハクトモチ	10月中旬	受託	25分
合計		1112a				

6 具体的な取り組みと役割分担

項目	H24	H25	H26	役割分担等
販路拡大	○	○	○	本人
栽培面積の拡大	○	○	○	本人
コンバイン(3条)の導入	◎			本人、市、県

7 支援事業の内容

年度	項目	数量	事業費 (千円)	負担区分(千円)		
				県 (1/3)	市 (1/6)	本人 (1/2)
H24	コンバイン(3条)	1	4,069	1,356	679	2,034